

小児気管支喘息の臨床的研究

分担研究者	東京大学小児科	小	林	登
研究協力者	北海道大学小児科	松	本	脩三
	国療盛岡病院小児科	根	本	紀夫
	埼玉医科大学小児科	中	山	喜弘
	九段坂病院小児科	島	貫	金男
	同愛記念病院小児科	馬	場	実
	国立小児病院アレルギー科	飯	倉	洋治
	京都大学小児科	三	河	春樹
	星薬科大学薬理	柳	浦	才三
	群馬大学小児科	黒	梅	恭芳
	国立相模原病院	塩	田	浩政
	神奈川県立こども医療センターアレルギー科	寺	道	由晃
	国立米子病院小児科	木	村	浩
	国療南福岡病院小児呼吸器科	西	間	三馨
	東京日立病院小児科	河	野	睦明
		千	吉	良英毅
	帝京大学小児科	高	島	宏哉
	杏林大学小児科	春	名	英彦

I. はじめに

本年度は、第三年次にあたり、研究協力者を一部変更し17名として構成した。

前年度に引続き、①気管支喘息の症状の計量評価、②小児気管支喘息の病型分類、③小児気管支喘息患者の日常管理指針の作製の三項目を共通の研究テーマとし、これに資するべき各個における研究をあわせて行うこととした。

以下各項目における本年度の経過と、得られた結果について順次述べる。

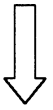
II. 本年度の研究

1. 気管支喘息の症状の計量評価について

昨年までの研究で、大発作6点、中発作4点、小発作1点として評価すると、月平均得点35点以上は重症、19点以下は軽症、その中間は中等症として実状と一致することが知られたが、松本らは、5例の自験例につきこれを検討した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.はじめに

本年度は、第三年次にあたり、研究協力者を一部変更し 17 名として構成した。前年度に引き続き、気管支喘息の症状の計量評価、小児気管支喘息の病型分類、小児気管支喘息患者の日常管理指針の作製の三項目を共通の研究テーマとし、これに資するべき各個における研究をあわせて行うこととした。以下各項目における本年度の経過と、得られた結果について順次述べる。